

阪神・淡路大震災により、お亡くなりになられた方々に、心より哀悼の意を捧げます。また、先日発生しました能登半島地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された方々に、お見舞い申し上げます。

29年前にこの街を襲った阪神・淡路大震災は、街を破壊し、多くの人が犠牲になりました。夢や希望が奪われ、街全体が深い悲しみに包まれましたが、私たちは、瓦礫の中から立ち上がり、一步ずつ前に進んでいくことを誓いました。その中で、私たちは改めて、人と人の絆の大切さを学びました。

今、能登半島を中心とした北陸の地にも、私たちがかつて経験したような悲しみに包まれている人々がいます。残念ながら、大地震という強大な自然の力から、私たちは逃れることはできません。しかし、大震災を経験した私たちには、その経験を礎として、被災した人に寄り添い、絆を結びながら、しっかりと支えていくことができます。北陸の復興のため、私たちは共に前を向いて進んで行きたいと思います。

今年は、震災から30年となる節目の年になります。私たちは、神戸の街を、震災で犠牲になった方々にも安心していただけるまで、復興させることができました。これからは、震災を知らない世代の人たちが、神戸の未来を創造していく時代です。灯籠が創り出す言葉のように、夢や希望に溢れる神戸の街を、若い人たちと共に創っていきたいと思います。

犠牲になった方々の御霊の安らかならんことをお祈り申し上げて、追悼の言葉といたします。

令和6年（2024年）1月17日
神戸市会議長 坊 やすなが